

## 茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

標 題	第 2 回 医療的ケア児等への支援検討プロジェクト
日 時	令和 6 年 7 月 1 1 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	茅ヶ崎市役所本庁舎 4 階 会議室 1
出席者	<p>           ■ 茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会 生活相談室とれいん 榎園 貴子            ■ 神奈川県立茅ヶ崎支援学校 白井 和子            ■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 遊びりパーク Lino' a 茅ヶ崎 大郷 和也            ■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 ムーブメントリラ菰園 大鷲 敬            ■ 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 マザー湘南 訪問看護そよかぜ 水野 美奈子            ■ mana の会 斉藤 美由紀            ■ mana の会 小山 陽子            ■ 医療的ケア児等コーディネーター 療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田 純子            ■ 医療的ケア児等コーディネーター ちがさきの木魂 安田 のり子            □ 社会福祉法人翔の会 児童発達支援センター うーたん 日高 義史            □ 茅ヶ崎市教育委員会教育総務部学校教育指導課 大坪 督            ■ 茅ヶ崎市こども育成部保育課 松尾 岳彦            ■ （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齋藤 祐二            ■ （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齋藤 優子            ■ （事務局）医療的ケア児等相談支援センターノア 瀬川 直人            ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 大八木 元            ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 荒井 優広            ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 副主幹 大畑 純子            ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主査 鈴木 敦之            ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主任 中村 知里         </p>
<p>司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 荒井課長補佐 書記：障がい福祉課 中村</p> <p>1 医療的ケア児在宅レスパイト事業について</p> <p>（1）事業案概要説明（荒井課長補佐）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月ぐらいからの実施を検討している。</li> <li>・県補助金の要領に基づいて事業が構成されている。</li> <li>・説明内容は別紙（茅ヶ崎市医療的ケア児在宅レスパイト事業（案））参照。</li> <li>・レスパイト事業時間帯については県の要綱に細かく定められていないため、実施する市によって差異が生じる可能性がある。</li> </ul> <p>（2）質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30分からでも利用可能か。</li> <li>→可能である。30分に満たない場合は30分に切り上げとなる。</li> <li>・医師の指示書について、費用は先に保護者が払うのか。</li> <li>→請求書を医療機関が市に提出する流れを考えている。保護者の負担は一時的にも発生しない予定である。</li> <li>・放課後等デイサービスの利用者が利用する場合は指示書が新たに必要か。</li> <li>→そのとおり。</li> <li>・レスパイト事業を開始する際の案内はどのようにするのか。</li> <li>→可能であれば mana の会や訪問看護ステーション等に御協力いただきながら周知をしていきたい。できるだけ多くの方に周知できるよう、周知方法は検討していく。</li> </ul> <p>2 地域資源共有シートを基にしたグループワーク</p> <p>（1）シートの説明（鈴木主査）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの目的の再説明</li> </ul> <p>医療的ケア児の支援体制について、課題が何なのか、社会資源として何があるのかを把握してから、その課題に対応するための会議体は何がよいのかを話し合う場である。</p>	

- ・提出された情報整理シートを集約した。わかる範囲で市内、市外に分別した。類似しているものは統一したため、若干記載方法が異なるものはある。

(2) グループワーク(記載して感じたこと、実情との差異について)

ア 1グループ

- ・18歳以降の成人になってからのサービスが脆弱ではないかという課題がみえた。
- ・GH や入所施設が市内にない。生活介護は市外に資源を依存している状況がある。  
→親が送迎する必要性が発生する。
- ・「生活介護から日中一時支援事業を利用する」というような長時間離れるような支援が難しい。
- ・入所施設がないなかで、日中離れられない状況がある。
- ・成人に移行してからの短期入所施設がない。
- ・行政それぞれで何をしている課かわからないところがあった。「〇〇に困った場合はどの課に行けばよい」ということを周知されるとよいと感じた。
- ・持ち寄った情報が精査されたことで、知らないことに気がついた。
- ・障がい者支援アプリに紐づいて周知できたらよいと思った。

イ 2グループ

- ・診療所等(市内)に列挙されているが、実際はワクチン接種程度であり、主には大学病院等にみてもらっている現状がある。
- ・重度訪問介護(市内):土屋訪問介護事業所は市から撤退し、実際はアクアになっている。
- ・日中一時支援:入道雲、水平線は医ケアが発生しない時間のみの預かりとなっている。
- ・学校:階段昇降機を使わないと上の階に行けない状況もある。
- ・移動支援:車の運転ができないと厳しい状況がある。
- ・ネットワークを好まず、情報が入りづらい親御さんもいる。そういった親御さんへの情報の周知が課題。

ウ 3グループ

- ・様々な資源があること、市内の資源が少ないことを確認できた。
- ・行政の役割が分かりづらかった。わかりやすくなるとよい。
- ・児童発達支援のうち居宅訪問型児童発達支援は、0歳から18歳までが利用可能である。
- ・福祉系は増えてきている印象がある。
- ・領域の違う部分はわからなかった。
- ・積極的に受け入れている事業所、積極的ではないが相談があれば受け入れられる事業所があり、それが分かるようになれば良いと感じた。

(3) グータッチからの総括

- ・例えば、「事業所に行けているが、週1しか利用できていない。本当は週5使いたい。」という家族がいる。このような声をどこに調査すれば実態把握できるのかを考え、共有できるとよい。
- ・私立の幼稚園、保育園は、行政として把握しづらい。幼稚園協会から撤退しているところもある。どのように情報収集すれば実態把握できるのかを考える必要がある。
- ・入所で小さき花の園に在籍している方については、行政で把握していると考えられる。  
行政が把握している入所人数と実態を突合できるとよい。
- ・福祉避難所の欄が大切であるが、個人情報に関係してくる。どの地域にどの障がいの方がいて、災害が起きた際にどこに避難するのかといった調査はすぐに動くことである。関連課と調査していくことが必要である。
- ・記載されていることと実態が異なる部分があった。障がい児が育つ過程でどのような環境があるとよいのか、何をどのように変えればその児に相応しくなるのかを考えていく必要がある。
- ・知的、発達障がいのない医ケアのみを必要とする児もいるということに留意する必要がある。

次回日程:10月29日 14時から16時 分庁舎5階 E 会議室